

2013 年 7 月 31 日

## 調査レポート

## 2013 年 4～6 月期の GDP (1 次速報) 予測

8 月 12 日に公表予定の 2013 年 4～6 月期の実質 GDP 成長率は、前期比 +0.7% (年率換算 +3.0%) となったと見込まれる。内需の底堅さに加え、外需も引き続きプラスに寄与したと考えられ、1～3 月期と比べて拡大のテンポは緩やかになるものの、景気回復の動きが続いていることを確認する結果になる。

個人消費は、前期比での伸びは鈍化するが、高い水準を維持しそうである。設備投資は、小幅ながら 6 四半期ぶりに前期比プラスに転じた可能性がある。公共投資は、経済対策の効果が本格化してきたことから高い伸びが見込まれる。外需寄与度は、輸出入ともに底堅く伸びる中で、輸出の伸びが輸入を上回っており、2 四半期連続で前期比プラスとなったとみられる。

名目 GDP も前期比 +0.8% (年率換算 +3.1%) と 3 四半期連続でプラスとなったと予想される。GDP デフレーターは前年同期比 -0.8% とマイナスが続いたが、マイナス幅は縮小する見込みである。

|                    | 2012 年 |       |       |       | 前期比 (%) |       |
|--------------------|--------|-------|-------|-------|---------|-------|
|                    | 1-3    | 4-6   | 7-9   | 10-12 | 1-3     | 4-6   |
| 実質 GDP             | 1.2    | - 0.2 | - 0.9 | 0.3   | 1.0     | 0.7   |
| 同 (年 率)            | 4.8    | - 0.6 | - 3.6 | 1.2   | 4.1     | 3.0   |
| 同 (前年同期比)          | 3.4    | 3.9   | 0.2   | 0.4   | 0.4     | 1.1   |
| 内需寄与度 (*)          | 1.1    | 0.1   | - 0.3 | 0.4   | 0.6     | 0.6   |
| 個人消費               | 0.8    | 0.2   | - 0.4 | 0.4   | 0.9     | 0.1   |
| 住宅投資               | - 1.5  | 2.3   | 1.5   | 3.5   | 1.9     | 3.6   |
| 設備投資               | - 2.5  | - 0.2 | - 3.3 | - 1.5 | - 0.3   | 0.2   |
| 民間在庫 (*)           | 0.4    | - 0.3 | 0.1   | - 0.1 | - 0.0   | 0.1   |
| 政府最終消費             | 1.5    | 0.2   | 0.4   | 0.7   | 0.4     | 0.3   |
| 公共投資               | 7.0    | 6.3   | 3.2   | 2.7   | 0.4     | 3.7   |
| 外需寄与度 (*)          | 0.1    | - 0.3 | - 0.6 | - 0.1 | 0.4     | 0.2   |
| 輸出                 | 2.7    | - 0.0 | - 4.4 | - 2.9 | 3.8     | 3.2   |
| 輸入                 | 2.0    | 1.8   | - 0.3 | - 2.2 | 1.0     | 1.8   |
| 名目 GDP             | 1.1    | - 0.5 | - 1.1 | 0.2   | 0.6     | 0.8   |
| 同 (年 率)            | 4.4    | - 2.0 | - 4.2 | 0.6   | 2.2     | 3.1   |
| 同 (前年同期比)          | 2.3    | 2.9   | - 0.6 | - 0.3 | - 0.6   | 0.4   |
| GDP デフレーター (前年同期比) | - 1.0  | - 1.0 | - 0.8 | - 0.7 | - 1.1   | - 0.8 |

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質 GDP に対する寄与度  
(出所) 内閣府「四半期別 GDP 速報」

三菱UFJリサーチ &amp; コンサルティング株式会社

調査部 小林 真一郎 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

①個人消費（前期比実質+0.1%）

個人消費は、伸び率は大幅に鈍化が見込まれるが、水準は高い状態を維持している。所得情勢が厳しい中であっても、消費者マインドの改善や、雇用情勢に持ち直しの動きがみられることが、その背景にある。

②住宅投資（前期比実質+3.6%）

住宅ローン金利の先高感や消費税率引き上げ前の駆け込み需要を反映して、住宅着工件数が増加しており、住宅投資も高い伸びとなったと予想される。

③設備投資（前期比実質+0.2%）

企業業績の改善が進みつつあることや、企業の景況感が持ち直してきていることを反映して、これまで先送りしてきた投資が動き始めたと考えられ、小幅ながら6四半期ぶりに前期比でプラスに転じた可能性がある。

④在庫投資（前期比実質寄与度+0.1%）

製造業を中心とした在庫調整の動きが一巡してきており、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度は若干のプラスになったと見込まれる。

⑤政府最終消費支出（前期比実質+0.3%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加した可能性が高い。

⑥公共投資（前期比実質+3.7%）

経済対策に盛り込まれた公共事業の発注が進んでおり、高い伸びとなったと予測される。足元の公共工事請負額も順調に増加している。

⑦外需（前期比実質寄与度+0.2%、輸出：前期比実質+3.2%、輸入：同+1.8%）

輸出は、米国向け自動車輸出などを中心に持ち直しが続いており、前期比で増加を維持したと見込まれる。一方、輸入も、前期比で増加したと見込まれるが、輸出の伸びは下回ったと予想される。この結果、外需のGDP成長率に対する寄与度は+0.2%と2四半期連続でプラスに寄与した模様である。

⑧GDPデフレーター（前年同期比-0.8%）

GDPデフレーターは前年比-0.8%と引き続きマイナスで推移したとみられるが、マイナス幅は縮小した見込みである。

－ ご利用に際して －

本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。

本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。

本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。

本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。